



令和6年7月1日

研修だより 20号

自由進度学習について

小笠原康晃

袋井型授業の次のステップとして、自由進度学習というものがあります。

これは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立する学習方法としてかなり注目されています。

自由進度学習とは、「子どもが自分のペースで学習をおこなう学習形態」というものです。

図工の時間を思い浮かべてください。

図工の時間は、その単元のゴールは決まっています。

作品を完成させることです。

しかし、そのゴールまでたどり着く過程は様々です。

自分一人で黙々と制作をする子。

友達と協力して制作する子。

一人で制作し、困ったとき友達や先生に協力をしてもらう子。

様々な方法で、作品の完成を目指します。

教師は全体に指示をしたり、机間指導をしたりして、一人一人の子どもの作品制作を支援します。

この学習形態は、主として図工や体育などの授業で見られました。

それを、国語や算数などで実践するのが「自由進度学習」です。

ICTを活用して、工夫すれば可能です。

ドリルパークやeライブラリ、ロイロノートなどを使うことで自由進度学習に近い学習ができます。

この「自由進度学習」の前提条件として、一定程度の人間関係が子どもたちにできていることや教師が一斉指導をしっかりと行い、学習の規律が整っている状態であることがあげられます。

1学期から自由進度学習をするということは、かなり難しいことだと思います。

しかし、2学期の後半から3学期にかけて実践することは可能です。

次号では、4年1組で実践している「自由進度学習」に繋がる学習形態を御紹介します。